

# 登山月報

オリンピックの夢、実現へ	1
2015年山岳スキー競技世界選手権大会報告	2
全国「山の日」フォーラム	3
平成26年度ジュニア・普及情報交換会報告	4
スポーツ指導者資格(ACとSC)の分離について	5
第75回 Mountain World	6
北から南から ブロック便り	7
ボルダリングジャパンカップ2015	8
トラッドクライミングミーティング2014(その3)	9
JMA、寄贈図書、編集後記	12

## オリンピックの夢、実現へ

国際スポーツクライミング連盟(IFSC)のマルコ・スコラリス会長が2月8日(日)～14日(土)にかけて来日した。

来日中は、9日に本会の最高顧問である衛藤征士郎衆議院議員、10日には日本オリンピック委員会(JOC)の竹田恒和会長、13日には東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の布村幸彦副事務総長を表敬してスポーツクライミングの現状を直接アピールした。

昨年12月8日の国際オリンピック委員会(IOC)の臨時総会(モナコ)で採択した「オリンピック・アジェンダ2020—20+20の提言」で、開催都市のオリンピック組織委員会が、1つまたは複数の種目を追加提案できる権利が承認された。これを受けて日本では、2020年の東京五輪にどの競技種目が追加参加できるのか、新春早々からマスコミを賑わせた。

野球、ソフトボール、空手道、スポーツクライミング、スカッシュ、武術太極拳、ローラースポーツ、ウエイクボードなど2011年のIOC理事会でノミネートされた競技種目のほか、ボウリング、ビリヤード、綱引き、ダンススポーツまで名乗りを上げた。この混沌とした東京の状況をIOCの本部では好ましく思っていない、とマルコ会長は語った。

競技種目の追加提案は承認されたが、オリンピッ



布村副事務総長を表敬

ク・アジェンダでは、選手総数10,500人、コーチ、サポート5,000人、種目数310などの枠組みが設定されているので、新たに参入させる競技種目の選定は、そう簡単ではないようだ。

スポーツクライミングの具体的な競技実施計画については「種目数、選手数はフレキシブルに弾力的に決めていきたい。」と語った。

マルコ会長は、スポーツクライミングの五輪種目参入は、50%以上の可能性をもって良いポジションにある。君たちは何%の可能性を持ってヒマラヤの頂を目指すか？ IOCと連携しながら粛々とアプローチしていけば、必ず夢は叶う、と語って離日した。

(記 尾形好雄)



JOC 竹田会長を表敬



衛藤衆議院議員を表敬